

氏 名	DESHAR BASHU DEV (デサル バス デーブ)
学位の種類	博士(経済学)
学位記番号	経博(甲)第13号
学位授与の日付	2014年3月20日
学位授与の条件	学位規則第4条第3項
学位論文題目	IMPACT ANALYSIS ON ECONOMIC ISSUES AND ENVIRONMENTAL DESTRUCTION IN NEPAL
論文審査委員	主査 教授 藤岡明房 副査 教授 元木靖 副査 教授 芹田浩司

審査の結果の要旨

1. 審査経過

平成25年10月24日ダサル バス デーブ (Deshar Bashu Dev) 氏より博士(経済学)の学位授与の申請書が立正大学学長宛に提出された。提出書類に不備がないことを確認の上受理された。

平成25年11月12日経済学研究科委員会に置いて博士論文受理及び審査委員会設置の件が審議され、決定された。その決定に基づき、立正大学経済学研究科において論文審査委員会が設置され、主査1名と副査2名が選出された。

主査 立正大学経済学研究科教授 藤岡明房

副査 立正大学経済学研究科教授 元木靖

副査 立正大学経済学研究科教授 芹田浩司

経済学研究科終了後、審査委員3名によって審査委員会が開かれ、口頭試問のための予定を決定し、その旨を申請者に通知した。

第1回目の口頭試問は、平成26年1月10日に開催され、バス氏より論文内容の説明がなされた。それに基づき、3名の委員より質問が出され、討論が行われた。そこでの議論を踏まえて審査委員会から方法論や論文の目的の明確化についての要望が出された。さらに、説明資料の追加も要請された。

第2回目の口頭試問は平成26年1月28日に開催され、バス氏から全体をまとめた図などを提出してもらい、それに基づいてバス氏より追加的な説明がなされた。そして、論文の目的や方法論、さらにはネパールにおける環境問題の特徴などについての討論が行われた。

これらの口頭試問での議論と提出論文の内容を踏まえて、審査委員会は審議をし、結論を出し、審査報告書を作成した。この審査報告書は2月17日に大学に提出された。

これとは別に、これらの口頭試問の議論を踏まえ、バス氏は最終論文をまとめて、2月6日に大学に提出した。この博士論文は3週間の論文閲読期間が設けられ、公開された。

平成26年2月25日に大学院経済学研究科委員会が開催され、提出された審査報告書に基づき、博士論文についての審議が行われることになった。

2. 論文要旨

バス氏の論文は、本文はすべて英文で書かれている。したがって、論文審査は英文を読んだうえでなされた。しかし、論文審査報告書は日本語で書かれることをあらかじめ断っておく。

バス氏の論文ではネパールにおける環境問題が取り上げられている。ネパールは世界でも最も貧しい国の1つであり、領土の大部分はヒマラヤ山脈につながる丘陵地帯という厳しい自然環境の下に置かれている。国家としては、2008年にそれまでの王制が廃止され連邦民主共和制が誕生したばかりであり、まだ政治的には不安定な状態である。したがって、ネパールにおける環境問題は、ネパールの政治・経済・社会・地理的条件に左右される部分が多いといえる。

各章は以下のようになっている。

- 第1章 ネパールの経済発展と環境問題の展望に関する研究
- 第2章 ネパールのバグマティリ川沿いの不法占拠問題と環境と経済への影響
- 第3章 ネパールの農業劣化と経済及び県境への影響の概要
- 第4章 チャパガウン：ネパールの鉱業汚染に関する研究
- 第5章 カトマンズ盆地のレンガ工場と環境及び経済への影響
- 第6章 ネパールの土壌浸食問題に関する調査
- 第7章 都市の貧困とネパールの環境及び経済への影響
- 第8章 結論

なお、英文表記は以下の通りである。

- Chapter 1. Economic Development and Environmental Issues of Nepal
- Chapter 2. Squatters Problems along Bagmati Riverside in Nepal and its Impact on Environment and Economy
- Chapter 3. An Overview of Agricultural Degradation in Nepal and its Impact on Economy and Environment
- Chapter 4. A Study on Mining Industry Pollution in Chapagaon, Nepal
- Chapter 5. Brick Factories in Kathmandu Valley and Its Impact on Environmental and Economy
- Chapter 6. Examination on the Soil Erosion Problem in Nepal
- Chapter 7. Urban Poverty and its Impact on Environment and Economy in Nepal: A Case Study of Kathmandu Valley
- Chapter 8. Conclusion

第1章は、第1部でネパールにおける経済・社会・政治、そして自然条件についての説明が行われている。これにより改めてネパールのおかれている厳しい現実が明らかにされた。第2部では第2章以下の各

章についての概要について述べられている。また、博士論文の目的と方法論についてもここで提示されている。

第2章は、カトマンズ盆地を流れ、ラリトプルからカトマンズを分離しているバグマティ川に沿った地域における不法占拠問題を取り上げている。このような不法占拠が生じたのは、急速な都市化と貧困の拡大が原因である。すなわち、バグマティ川沿いの地域はカトマンズに残された貴重なオープンスペースであるため、都市化によって増加した人口が不法占拠という形で住み着いた。この不法占拠によってこの地域の環境は急速に悪化し、川の汚染や廃棄物の大量排出が生じている。バス氏はこのような実態を調査し、短期的な解決策の困難さを指摘し、住民の生活水準の向上などの長期的解決策が必要であるとしている。

第3章は、ネパールの人口の約8割を占めている農業において、化学肥料の利用や農薬の過度の使用、不適切な灌漑施設、土壌の浸食、農業従事者の減少、自然災害の発生などによってネパールの農業の劣化が進んでいることを明らかにした。また、都市地域外の地域においてはかなりの部分が農業に充てられている。その上で、有機農法の導入によって農業の劣化を阻止し、農業の発展を目指すことが望ましいとしている。

第4章は、カトマンズ盆地におけるチャバガウンの鉱業汚染を調査・分析し、環境への影響が増加していることを明らかにした。道路網については拡大しており、砂利の需要を増加させている。そのため、鉱山業の生産が増加したが、そのことが景観美の破壊、土壌品質の低下、農業生産量の減少、大気汚染の増加、飲料水源の乾燥、土壌侵食などの環境の悪化が生じることになった。このような鉱山業によってもたらされる環境汚染の状況を現地調査し、住民への面接、アンケート調査の実施により実態を明らかにすることに成功している。その上で、これらの環境悪化に対しては、新規の鉱山業の開発についての不許可や資源のリサイクルの促進などの手段を用いることによって、環境の改善を目指すべきことが提案されている。

第5章では、カトマンズにおける住宅地の建設の増加に伴い、レンガの需要が増加している。そこで、レンガの生産が急増しているが、そのレンガ工場から大気汚染物質が排出され、環境の悪化をもたらしている。さらに、健康にも被害をもたらしている。このような現象が生じていることを、現地調査によって明らかにしている。

第6章では、ネパールの広い範囲にわたって生じている土壌侵食について調査している。そして、その原因としては、1) 過放牧、2) 無計画的耕作、3) 森林伐採、4) 土壌の枯渇、などがあげられている。土壌侵食や土壌肥沃度の低下は農業生産に悪影響を及ぼすことから、それに対する対策が必要になる。そこで、土地保全法などの法律やルールの見直しを行い、土地保全法の集約を行う必要性を唱えている。

第7章は、都市の貧困問題を既存データなどに基づいて検討している。人口の8割を占める農民は、農村では生活の改善が期待できないので、カトマンズ盆地に出てきて生活を始めるが、住居がないため不法占拠することによって居住するようになる。しかし、これらの不法占拠の居住地では適切な規制が行われないので、劣悪な環境になってしまう。しかも、その地域の住民は低賃金の労働者となるので、労働需要の増加に伴い、さらに人口が増えることになる。このように、低賃金労働が需要される限りは不法占拠の居住地は広がることになるのである。このような状況を改善するためには、土地利用の規制をはじめ賃金

政策などの総合的な対策が必要であるとしている。

第8章では、第2章から第7章までの結果に基づいて全体としての結論を出している。

3. 論文審査

バス氏は、ネパールの環境問題を取り上げるにあたって、最も重要と思われる問題から研究を始めている。それが、現在カトマンズ盆地で生じている不法占拠に伴う環境悪化の問題である。そこでの現地調査や面接・アンケート調査などにより実態を明らかにしている。特に、第2章のバグマティ川沿いの不法占拠の問題はインドの国際ジャーナルである International Journal of Environmental Engineering and Management の2013年9月号に掲載された論文に依存している。掲載に当たりレフェリーからの注文により内容を書き換え、より具体的にすることによって改善が行われている。また、第4章のチャバガウンの鉱業汚染問題は、カナダの国際ジャーナルである Canadian Center of Economic and Social Development の2013年10月号に掲載された論文に基づいている。この論文についてのレフェリーからの注文により修正がなされている。

また、ネパールの産業の中心は農業であることから、現在ネパールの農業が直面している農業劣化の問題を取り上げ、農業の近代化や都市化が農業の環境を悪化させていることを示している。その関係で、第3章では農業劣化の問題を取り上げている。この第3章の内容は、インドの国際ジャーナルである Global Journal of Economic and Social Development の2013年10月号に掲載された論文に基づいている。

第5章のレンガ工場については2012年3月刊の立正大学大学院年報の第4巻に掲載された論文に基づいている。第6章の土壌侵食については2011年3月刊の立正大学大学院年報の第3巻に掲載された論文に基づいている。

このようにバス氏のネパールにおける環境問題に関する研究は、特に重要と考えられる問題を中心に行われていることになる。すなわち、カトマンズ盆地で生じている不法占拠によってもたらされる環境問題、農業劣化に伴う環境問題、レンガ工場の生産に伴う環境問題、土壌侵食によって引き起こされる環境問題などである。これらの環境問題に関し現地調査を行い、実態を解明している。その調査結果が評価され、環境を中心とする国際的な専門誌に論文が3本掲載されることになった。したがって、バス氏の研究は、国際的な基準で見ても十分評価できるものといえるであろう。

バス氏は、日本地域学会の全国大会において2011年度と2012年度に研究発表を行っている。それらの成果も本博士論文に反映されている。

以上のように、バス氏の研究はネパールという世界的に見ても最貧国に位置づけられる内陸国における環境問題を取り上げ、実態調査を行うことによって、その具体的な問題点を明らかにした点は高く評価できる。したがって、バス氏の論文は課程博士の論文に十分値するものと判断した。